

第 27 回新型コロナウイルス感染症対策協議会 委員ご意見

議題（1）病床確保計画改定（案）について

委員	意見
掛屋会長	<p>新型コロナウイルス感染症は、新規の変異株へ置き換わりが起こると共に大きな流行の波を形成してきた。一方、現在は多くの国民が複数回ワクチンを接種したことやオミクロン株が主流株となり、入院患者は重症患者より軽症・中等症患者が主となってきている。今後は、オミクロン株の亜系統 BA.5 から新規亜系統（BQ.1 系統など）へ変わっていく可能性が示唆されている。新規の亜系統株はやや増加率が高い可能性があるが、基本はオミクロン株の特徴を有しているものとする。冬期は年末年始時期の人流増加や換気不十分等の環境の変化も伴い、前 2 シーズンは冬期に患者数が増加する傾向があり、本シーズンも注意が必要と考える。</p> <p><u>オミクロン株の特徴や現在の病床利用状況を考え、軽症・中等症病床を中心に病床の十分な確保を計画した病床確保計画改定（案）に賛同する。</u>一方、<u>今後の流行株の病原性や病床利用率の状況を解析し、必要あれば迅速かつ柔軟に多くの医療機関に対して病床確保協力を依頼できる準備が必要と考える。</u>新型コロナウイルス感染症が興って 3 年が経過し、多くの医療機関には感染対策のノウハウが蓄積されつつあるが、新規受入を始める医療施設には十分な感染対策の指導をお願いする。</p>
乾委員	<p><u>一般医療との両立を大前提に、第七波の経験や空床保障制度改正を踏まえ、病床確保計画を改定されることに同意する。</u>病院の体制に過度な負担がかからないよう、迅速かつ柔軟な対応を考慮していただければと考える。</p>
木野委員	<p><u>今回の病床確保計画に賛成する。</u>限られた病床を効率的に運営することが求められる。特に冬場は心不全や高齢者の骨折など、一般診療のための病床が逼迫する。そのような中でコロナ病床も確保しなければならない。コロナ病床と一般病床を弾力的に運営できるよう願います。限られた病床である。<u>今流行中のコロナ感染の状況を考えると、重症用の病床を一部、軽症・中等症へ振り分けることも適切な処置だと思う。</u></p>
忽那委員	<p>オミクロン株の拡大以降、<u>感染者全体に占める重症者の割合は低下しており、軽症中等症病床の逼迫が問題となってきていることから、今回の変更は妥当と思われる。</u>ただし大学病院など高度医療を提供する医療機関に軽症中等症の患者の診療を負担させることで、本来高度医療を受けるはずの他疾患の患者の医療機会が失われることにもなりうる。本来は、病院の機能に合わせた病床配分が望ましく、コロナを一般の病気として捉えていく過程としてはやや逆行する動きのようにも思われる。</p>
高井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・このたび提示を受けた「<u>新型コロナウイルス感染症にかかる病床確保計画（改定案）</u>」に関し、内容に賛同する。以下、意見等を記す。 ・変異株やウイルスの特性が大きく変化しない限り、今後、急激に重症病床が埋まるとは考えにくい。しかしながら、<u>感染者の母数が増えた場合、自ずと軽症・中等症患者が増加することが想定されるため、軽症中等症病床の拡充は理にかなった対応である。</u> ・<u>感染拡大時のフェーズ移行（準備）を速やかに行うことは、病床が埋まるスピードを予測しづらい状況において、現場は大変であるが妥当と思う。</u> ・既に指摘されている点でもあるが、実際に運用できるのは確保病床の 6～7 割程度であることを念頭に置いたうえで、各病院に協力を求めている。

委員	意見
弘川委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>第七波の状況を踏まえ、軽中等病床の確保数を充実し、フェーズ移行の判断時期を見直したことは評価できる。今後、実態に即した運用に留意されたい。</u> ○ 「<u>重症病床に代わる軽症中等症病床の確保等要請（※）</u>」の実施にあたっては、単なる病床数の増減ではなく、<u>重症病床を軽症中等症病床へ転用するための病床運営のノウハウが必要であることから好事例の蓄積と周知が重要である。</u> <p>※重症病床フェーズ5の計画病床数とフェーズ3の計画病床数の差分1床につき、2床程度以上を軽症中等症病床フェーズ5以上で積み増し。</p>
倭委員	<p><u>各病院のフェーズ毎の確保病床数の総数、感染拡大時及び感染収束時のフェーズ移行の判断基準の見直しにかかる大阪府の病床確保計画改定(案)に賛成する。フェーズ移行の判断基準として、第七波における入院患者数を参考にされた確保病床数を踏まえて感染拡大時における判断基準を見直しされている点、また空床補償制度改正を踏まえて感染収束時における判断基準を見直しされておられる点は高く評価されるかと思う。しかし、今後新たな変異株による想定を超える感染拡大が見られ、予想を超える入院患者数の増大が万一見られた際には臨機応変に対応を要することは重要かと思う。また、各医療圏ごとのばらつきの是正、さらに</u></p> <p>今後は一般医療との両立においてこれまで以上に新型コロナウイルス患者に病床を確保することが困難になる点、また通常の診療における対応を要する患者が新型コロナウイルス陽性が判明した際には、その医療機関において診療継続することを各医療機関にさらに要請していくことが重要になるか考える。さらに今後5類（相当の）感染症になった際に備え、これまで新型コロナウイルス患者を診療されていなかった医療機関に対する感染対策に対する相談や訪問による指導、及び診療方針についての事前の研修会などによる情報共有を進めていく必要があるかと思う。また、重症化抑制につながるオミクロン BA.4/5 ワクチンの追加接種や早期診断及び外来において早期の適切な治療を行える体制構築を引き続き進めていただくなど、入院病床の逼迫が起こらない取り組みを継続してほしいと思う。</p>